普及だより

令和元年12月1日発行
第59号
茨城県県央農林事務所
笠間地域農業改良普及センター
TEL (0296)72-0701・FAX (0296)72-2718
笠間農業改良普及事業推進協議会
笠間市・城里町
JA常陸・JA水戸

笠間地域農業経営セミナー開催
ドローンの農業への利活用を学ぶ

近年、小型で航行の安全性の高いドローン技術の進展はめざましく、人手不足が深刻な農業分野で、病害虫防除や農作物の生育診断などへの活用が期待されています。

今回、笠間管内の生産者等を対象に「ドローン」をテーマとしたセミナーを、十一月十二日、笠間公民館にて開催したところ、六六名の参加がありました。

セミナーでは、エアービジョンサポートの大塚氏に、ドローン技術の進展と農業分野への利活用及び今後の展望を、茨城スカイテック株式会社の鈴木専務からはドローンの飛行マニュアルと農薬空中散布のガイドラインについて説明いただきました。また、笠間普及センターからは、今年、試験的に笠間市と城里町で実施したドローンによる水稲航空防除の作業風景（動画）と防除効果について報告しました。

参加者からは、笠間市の特産である「栗」や城里町で近年、作付けが増えている「ハトムギ」への活用ができないかなど、前向きな意見が出されました。

管内における枝物の出荷状況

旬の枝を使った手作りの展示（JA常陸友部枝物部会作成）

笠間地域では、枝物生産の老舗産地として、六〇種類以上もの枝物・実物・草物類が生産されています。

三月から四月にはサクラ類、五月から六月にはナツハゼ、ヒメリョウブ等を出荷します。七月からはノバラの出荷が始まり、十一月まで続きます。九月からミズキ類やヤナギ類の出荷が始まり、十二月からはハナウメ、一月からはハナモモの出荷が始まります。ウメやモモは、正月や桃の節句に向けた商品として需要があります。

このように年間を通して生産される枝物は、生産者独自の工夫による栽培管理によって高い品質を実現しています。

中央アグリクラブが先進地事例研修を実施

十一月十九日に、笠間地域の若手農業者の集まりである「中央アグリクラブ」が企業的経営の先進地事例研修として、古河市の（有）森ファームサービスを訪れました。

研修先では、森雅美代表取締役より、「経営者として目的をはっきりさせ、ブレないことが重要だ」と激励を受け、森ファームの取り組みについて説明を受けました。

研修終了後、クラブ員からは「経営ビジョンの作り方について参考になった」という声が多く聞かれ、良い刺激を受けたようです。

クラブでは、一緒に活動する若手農業者を募集しています。興味のある方は、笠間普及センターまでお問い合わせください。

新規就農者のための農業講座を開催しています

笠間普及センターでは、就農一～三年程度の方を対象とした講座を開催しています。

第四回、五回として開催した講座は、県農業研究所視察と農業資材展視察です。農業研究所では、水稲やカンショの研究ほ場の視察を行いました。農業資材展視察では、最新の農機具やドローンの展示などを幕張メッセで見学しました。

今後開催予定の講座は、一月に農業経営向上セミナー、三月に農業機械研修です。興味のある方は、ご連絡ください。

笠間市の動き

地域おこし協力隊が活動しています

地域おこし協力隊とは、都市部から地方へ移住し、三年間まちおこしなどの活動を行う人材を自治体で採用する制度です。

小美玉市出身の川島隊員は、学生時代から就農を志し、北海道札幌市での金融機関勤務を経て今年七月に笠間市地域おこし協力隊に就任しました。

着任後は、笠間市内の農業者を巡回し、笠間市の農業のPRを行っています。今後は就農に向けて農地の選定や技術習得等の活動も行っていく予定です。

活動はFacebookで発信していますので、ぜひご覧ください。（記：笠間市農政課）

川島　拓　隊員（25）

ツマジロクサヨトウにご注意ください

ツマジロクサヨトウとは、ヤガ科の害虫で、国内では七月に鹿児島県で初めて確認され、八月には茨城県内でも確認されました。

最終幼齢虫の体調は約四〇ミリとなり、頭の逆Y字（写真）及び尾部の斑点が特徴です。寄生植物は、イネ科やナス科など幅広く、国内では主に、飼料用トウモロコシやスイートコーンなどで発生が確認されています。

多発すると被害が拡大する恐れがあるため、ほ場で疑わしい害虫を見かけた際には、笠間普及センターまでご連絡ください。

ツマジロクサヨトウの幼虫
（農水省提供）

イネ縞葉枯病とイネ馬鹿苗病の対策徹底を！

イネ縞葉枯病は、ヒメトビウンカが媒介するウイルス病で、近年、県西地域などで被害が拡大しています。この病害に感染すると、穂に出すくみ症状が現れ、穂が不稔となり減収します。笠間市や城里町でも昨年までは発生が少ない状況でしたが、本年に入り、穂の出すくみ症状の多いほ場が多く見受けられるようになってきました。

対策はウンカの飛来源である畦畔雑草防除や麦での薬剤防除のほか、水稲では移植時にウンカ類に登録のある箱施用剤の散布が有効です。

イネ馬鹿苗病は、葉が黄色くなり苗が徒長する種子伝染性の病害です。主食用米では、これまで種子消毒が徹底され問題となっていませんでしたが、近年は飼料用米の普及推進により、専用品種を自家採種し、未消毒で栽培する農家が一部で見受けられ、馬鹿苗病が再び目立つようになってきました。

この病害を防ぐには、種子更新すること、また、自家採種する場合、塩水選を行い、化学合成農薬等で種子消毒を徹底する必要があります。

写真１　ヒメトビウンカ
（県農業研究所提供）

写真２　イネ縞葉枯病　出すくみ症状（県農業研究所提供）

写真３　イネ馬鹿苗病
（県農業研究所提供）

城里町の動き

IBARAKI senseで古内茶と常陸大黒をPR

茨城県のアンテナショップであるIBARAKI sense（東京都中央区銀座）で九月二八日、二九日に古内茶と常陸大黒の販売PRを行いました。両日合わせて七〇〇名を超える方に緑茶や和紅茶、常陸大黒煮豆を試飲提供し、好評を得ました。一方で古内茶を知っている方は試飲された方のうち、一〇名弱と少なく、東京都での古内茶の知名度の向上が課題であることが感じられました。

城里町では、今後も継続的に町内農産物の販売促進の支援に取り組んでいきます。

（記：城里町農業政策課）

新任・退任農業三士のご紹介

七月十一日、令和元年度茨城県農業三士の認定式及び平成三〇年度退任式が茨城県総合福祉会館で開催されました。当管内からは青年農業士として小西秀実さん（笠間市）が認定されました。

また、平成三〇年度をもって、農業経営士の小林修治さん（城里町）、青年農業士の永田修一さん（笠間市）、上野真裕さん（笠間市）が退任されました。長い間の御活躍、ありがとうございました。

新青年農業士

小西　秀実　氏

経営類型

普通作
（水稲、麦、そば、タバコ）

令和二年度 茨城県立農業大学校 入学生募集のお知らせ

県立農業大学校では、高校等の卒業者（若しくは見込者）を対象に農業部（農学科四〇名・畜産学科一〇名）、園芸部（園芸学科三〇名）、農大卒業生と同等の学力を有する者を対象とした研究科（作物・園芸・畜産の専攻コース）一〇名の学生を募集します。

▼入学願書の受付期間

◎一般入学・前期（各学科）
令和元年十一月十一日～十二月六日

◎一般入学・後期（各学科）
令和二年二月三日～二月二十一日

◎研究科
令和元年十一月十一日～十二月六日

▼問い合わせ先

茨城県立農業大学校
電話（〇二九－二九二－〇〇一〇）
FAX（〇二九－二九二－〇九〇三）

▼農大ホームページ

農業総合センター農業大学校／茨城県　検索

笠間地域就農支援協議会の活動について

就農支援協議会では、就農を希望する方に対して、市町や普及センター、農協等の関係機関が連携して就農相談や情報発信、技術・経営支援等を行っています。将来の担い手を確保するため、県内や全国の就農相談会等にも積極的に参加し、情報発信しています。

また、農業三士を中心に就農アドバイザーを委嘱し、就農を希望する方や県立農業大学校の学生の研修を受け入れています。

7月に新農業人フェアinいばらき（水戸）の就農相談会に出展

新規就農を希望する方へ

皆様の周りに、新しく農業を始めたいと思っている方はいませんか。普及センター・笠間市・城里町・各農協では、農業を始めたい方の相談にのっています。

「就農相談窓口（別表）」では、就農・研修に対するアドバイスや、各種支援事業（制度資金や農業次世代人材投資資金（準備型・経営開始型）等）に関する情報提供等を行っています。

農業に興味がある方は、お近くの相談窓口へぜひお越しください。私たちは、これからの農業を支える担い手を求めています。

●相談窓口●

- 笠間地域農業改良普及センター　TEL〇二九六－七二－〇七〇一
- 笠間市農政課　TEL〇二九六－七七－一一〇一
- 笠間市農業委員会　TEL〇二九九－三七－六六一一
- （一財）笠間市農業公社　TEL〇二九六－七三－六四三九
- 城里町農業政策課　TEL〇二九－二八八－三一一一
- 城里町農業委員会　TEL〇二九－二八八－三一一一
- JA常陸笠間営農経済センター　TEL〇二九六－七四－四七〇〇
- JA水戸常北購買センター　TEL〇二九－二八八－二三二八
- JA水戸かつらセンター　TEL〇二九－二八九－二七二二